May 2016 subject reports

Japanese A: language and literature

Overall grade boundaries

Higher level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 13	14 - 30	31 - 47	48 - 60	61 - 73	74 - 86	87 - 100

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 11	12 - 27	28 - 42	43 - 57	58 - 72	73 - 86	87 - 100

Internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 9	10 - 13	14 - 17	18 - 20	21 - 24	25 - 30

提出された成果物の特徴および適切さ

ほとんどの抜粋文の長さは適切でしたが、中には非常に短い詩もありました。また、教師は「考察を促す問い」を 2 つ用意しなければなりませんが、中には 2 つとも内容に関するものだったり、特定の具体的な詳細を問うようなものだったりと不適切な設問もよく見られました。

多くの教師は個人口述コメンタリーを適切に行い、受験者もよく準備できていました。しかし、中には、 ディスカッションにおいて、教師が「指導の手引き」にきちんと従っていないため、受験者が十分に実力を発揮できていないように見受けられるものもありました。 受験者との意見交換のような形式をとり、教師の方が受験者より長い時間話したり、テクストに関係のない作者の生涯や当時の時代背景について長い時間を費やしたり、テクストの感想を述べ合ったり、事前にディスカッションの質問リストを用意して、同じ学校内の受験者にすべて同じ質問をしたりと不適切な例もよくありました。

1/L&LIA の教師による評点の根拠として、「指導の手引き」の採点規準に照らし合わせないで、一般的な感想や印象を述べたり、当日の受験者の様子や今までの努力など、モデレーションに役に立たない内容を記入していたりするものもありました。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A：テクストまたは抜粋についての知識と理解

大多数の受験者は抜粋文の内容を熟知していて、その理解と解釈についてよく述べていました。高得点のコメンタリーは与えられたテクストのみに焦点を絞り、「考察を促す問い」への答えを巧みに統合し、テクスト内の適切な箇所に言及して、論評を裏づけていました。一方、抜粋元のテクストについて知っていることのすべてを述べようとして、テクスト全体のあらすじや、作者の生涯とその時代的背景や、関連性がないのにもかかわらず作者の他の作品も説明したりするものもありましたが、このような、評価規準には求められていないことに言及しているコメンタリーは、表面的な理解に終わっていることが多かったです。

規準 B：文学的特徴およびその効果についての理解

ほとんどの受験者のコメンタリーはテクストの文学的特徴をよく捉えて説明していました。しかし、そのような文学的特徴について、テクストがその意味を構築するのにどのように使われ、読者にどのような効果をどの程度与えているか適切に述べている受験者はあまりいませんでした。また、技法について専門用語を使い一般的な説明していても、与えられたテクスト内での特定の使われ方に優れた理解を示している受験者はあまりいませんでした。高得点のコメンタリーは、抜粋されたテクストの全体における位置付けや、テクスト内の構成などにも言及し、また、見解や感情を効果的に伝えるための作者の文体や技法の工夫とその効果についても、テクストの適切な箇所に言及しながら述べていました。

規準 C：構成

高得点のコメンタリーは、テクストについてのばらばらなポイントをただ単に列挙するのではなく、巧みに構成して一貫性を持たせ、10 分間継続して話していました。一方、多くのコメンタリーはテクストを初めから行ごとに順番に説明しているだけにとどまっていました。受験者にとって、一貫性のある整理された方法で自分の考えを使える能力を示すことは難しかったようです。

規準 D：言語

コメンタリーとしての言葉遣いは明確でペースも良く、語彙の選択、文法、構文も含めレジスターも全体的に適切でした。専門用語を使う受験者が多かったのですが、中にはきちんと理解していないで使用している場合もありました。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

今後の指導に関する提案およびアドバイス

個人口述コメンタリーにおいて、受験者は抜粋箇所の文学的な分析を行うことが求められています。つまり、教師は、十分な詳細記述を含んでいて、評価規準に照らし合わせて評価できるだけの徹底的な考察が可能な抜粋箇所を選択しなければなりません。短い詩を選択する場合も同様に、批判的に考察できる十分な要素があることを確認してください。

「考察を促す問い」を用意するにあたり、『「言語 A:言語と文学」指導の手引き』(p.70)を参照してください。1 つはテクストで何か起こっているか、または何が論じられているかを問う設問、そしてもう 1 つはテクストで使われている言語について問う設問を用意しなければなりません。

コメンタリー後のディスカッションにおける教師の役割は、受験者が抜粋内の特定の詳細事項を理解し、その重要性を認識しているかどうかを確認することです。受験者にコメンタリー内で述べた特定の主張についてさらに詳しく説明させたり、疑わしい主張を改善させたりするべきで、教師が受験者と意見交換をする場ではありません。

教師による評点は「指導の手引き」の採点規準に照らし合わせて、日本語で記入してください。

受験者に個人口述コメンタリーの練習をもっと継続的にさせてください。実際に 10 分間という時間の感覚を身につけることによって、内容についてどの程度まで話すのか、またコメンタリーをどのように構成するのかが習得できると思います。

コメンタリーの組み立て方についてもさらなる指導が必要です。聞き手を意識した効果的な構成のために必要なことは何か、小論文（エッセイ）やテキスト分析などの筆記問題における構成との共通点や相違点、口述コメンタリーとして特に留意することなど、クラスで話し合う機会を持ってみたらどうでしょうか。また、生徒同士でお互いの口述コメンタリーを相互評価させることでより気づきを促すことができるかもしれません。

Higher level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 5	6 - 11	12 - 18	19 - 23	24 - 28	29 - 33	34 - 40

提出された成果物の特徴および適切さ

記述課題 1 については、もとにしたパートに目だった片寄りは感じられず、作品のテキストタイプも、パンフレット、日記、手紙、ブログ、後日談など、多岐にわたっていました。ほとんどの作品が、テキストタイプにふさわしい様式、言語形態で書かれていました。

記述課題 2 においては、採点の際には学校名も含めてすべて匿名であるため厳密なことは言えませんが、「概要(Outline)」 のフォーマットを学校で指定している場合のほうがよい成績をあげていると感じました。これは、生徒にも「書くべきこと」がはっきり理解できることから、当然の結果といえるでしょう。

中には時間ぎりぎりで仕上げたと思われる作品もありました。スケジュールに余裕をもってじっくりと取り組んでほしいと思います。

評価規準に基づく受験者の到達度

記述課題 1

規準 A:

「課題の解説(Rationale)」にパートおよび学習知識との関連性の記載がなく、そのため知識の裏付けが解らない作品が数多く見受けられました。

どのようなテキストタイプを選んだのか、またなぜそのテキストタイプが提出作品に適切なのかという点について触れていない作品も多く見られました。

規準 B:

「課題の解説(Rationale)」がしっかりと書かれていた場合には、トピックに対する理解や内容もよく示されていました。「課題の解説(Rationale)」で書くべきことが守られていない場合には、生徒も何を書くべきかを正しく理解できていないような作品が見られました。例として、「目上の人に宛てた手紙」であるのに、友達へ送ったメールのような、形式・内容であるようなケースが見立ちました。

規準 C:

大部分の作品はよくまとまっており、構成にも一貫性がありました。

規準 D:

使用された漢字のレベルに大きな差が見られました。漢字で書くべきところは漢字で書き、意図的に平仮名や片仮名を使うのであれば、その旨を「課題の解説(Rationale)」において意図と効果として説明しておくべきでした。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

記述課題 2：

規準 A:

「概要(outline)」と「課題の解説(rationale)」を同じ形式で書いている受験者がいました。また、「概要」が存在しないケースもありました。「概要」には、設問をどのようにとらえ、どの作品を使って答えたのかだけではなく、課題の重点を 3〜4 つの主要ポイントにまとめた説明も記述する必要があります。

規準 B:

多くの解答はテクスト内の適当な箇所に言及することにより答えを裏付けていましたが、用いたテクストが電子テクスト(SNS サイトやブログなど)、あるいはパンフレット(公共情報の冊子など)の場合に、元のテクストが参照できない場合がありました。このような場合に備えて、必要な場合にはテクストを添付資料として提出するとよいでしょう。

規準 C:

論文の中に、「序論」「本論」「結論」と見出しを入れている作品が時々見られました。特に減点はしませんでしたが、基本的な論文の形式としては、このような見出しは必要がないと感じました。

本論に関しては、2〜3 つの形式段落しかないもの、あるいは、あまりに多くの形式段落から成るものがあり、論理構造が読み取れない作品もありました。論理構造が理解しやすい段落分け等の工夫をするとよいでしょう。

規準 D:

タイプミスなのか誤字・脱字が気になる作品がかなりありました。

SL に比べると少ないのですが、課題に不適切な語彙や語調の使用が時折見られました。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

「『言語 A:言語と文学』指導の手引き」（OCC で日本語版が発表されました）をよく読んで、ガイドラインに基づくことが重要です。書くべきことや制限字数等を再度確認したうえで、指導にあたるようにしてください。

記述課題 1： SL のコメントを参照してください。

記述課題 2：

設問の意味を勘違いしていると思われる解答が多く見られました。設問の意味を授業で十分に理解しておく必要があるでしょう。

記述課題 2 は、批判的解答という形式をとり、きちんとした小論文の形で構成しなければなりません。小論文にふさわしい言葉遣いを心がけ、引用文献、参考文献はすべて記載したうえで、必要に応じて根拠としたテクストを添付するようにしてください。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

基本的なことですが、提出前には必要事項の確認をするように指導することをお勧めします。特に、カバーシートの学習内容等に記入もれがないことを確認しなければなりません。また、誤字脱字に関しては、提出する前にもう一度読み直して訂正することにより、減点を避けることができるはずです。

Standard level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 9	10 - 12	13 - 14	15 - 17	18 - 20

提出された成果物の特徴および適切さ

もとにしたパートに目だった片寄りは感じられず、作品のテキストタイプも、パンフレット、日記、手紙、ブログ、後日談など、多岐にわたっており、ほとんどの作品が、テキストタイプにふさわしい様式、言語形態で書かれていました。

「課題の解説（Rationale）」　がしっかり書かれているものほど、作品全体の質も高くなっていると感じました。これは、生徒も「書くべきこと」を明確に理解できることから、当然の結果といえるでしょう。

ごく一部の作品において、付け焼刃で仕上げたと思われる作品がありました。スケジュールに余裕をもってじっくりと取り組んでほしかったです。

評価規準に基づく受験者の到達度

規準 A:

学習した作品と創作との繋がりをきちんと説明出来ていない作品、読者対象について触れていない作品が多く見受けられました。また、どのようなテキストタイプを選んだのか、またなぜそのテキストタイプが提出作品に適切なのかという点について触れていない作品も目立ちました。「課題の解説(Rationale)」の要件に関しては、「指導の手引き」の 36～37 ページを参照してください。

規準 B:

「課題の解説(Rationale)」で書かれていることが守られていないケースが目立ちました。例えば、「課題の解説」においてテキストタイプを「新聞記事」としているにも関わらず、横書きの形式をとっている作品がありました。日本で発行されている新聞のほとんどは縦書き

ですから、あえて横書きにしたいのなら、その理由や効果を「課題の解説」に記入するべきでした。

規準 C:

一部を除いて、作品はよくまとまっており、構成にも一貫性がありました。

規準 D:

使用された漢字のレベルに大きな差が見られました。漢字で書くべきところは漢字で書き、意図的に平仮名や片仮名を使うのであれば、その旨を「課題の解説(Rationale)」において意図と効果として説明しておくべきでした。

使用する語彙は、テキストタイプにふさわしいものを使うべきでした。例えば、一口に記事といっても、新聞記事と雑誌の記事、あるいは大人向けの雑誌と子供向けの雑誌とでは使うべき語彙は異なるはずです。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

「『言語 A:言語と文学』指導の手引き」（OCC で日本語版が発表されました）をよく読んで、ガイドラインに基づくことが重要です。書くべきことや制限字数等を再度確認したうえで、指導にあたるようにしてください。

「課題の解説」の内容自体が明らかに誤りであるとしか考えられない場合がありました。生徒は、課題の最初の草稿を作成した段階で教師からアドバイスを受けることができます。この段階で、使用する素材について学習した内容を再度確認することをお勧めします。

カバーシートの学習内容等が、全く記入されていない、あるいは一部が未記入である生徒がいました。記入もれがないことを確認のうえ、提出をお願いします。

「課題の解説」も含めて、誤字・脱字のある作品が目立ちました。提出前に再度チェックするように生徒を促すとよいでしょう。

Higher level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 10	11 - 12	13 - 15	16 - 17	18 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

課題文の文体の特徴について、単に技法を羅列するだけでなく、それが課題文の意味の形成にどのような効果をもたらしているか論じることは難しかったようです。フォントの違いや横書きと縦書きの違いなどの細かい要素に気づき、それらの果たす役割まで言及している受験者は稀でした。また、テクスト分析を簡潔にまとめて、適切な表現を用いて書くことも難しいようでした。特に、2 つの課題文の分析をバランス良くかつ効果的に構成し比較対照できている受験者は少なかったです。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

ほとんどの受験者は課題文の主題や内容に対する適切な理解を示し、文脈・読者層・目的についても課題文に言及しながら根拠に基づいて論じていました。また、2 つの課題文の共通点や相違点も適切に考察していました。 さらに、多くの受験者は語彙力も豊富で、漢字の読み書きもよくできているうえ、文法の間違いもなく、限られた時間内で自分の考えを述べることができていました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 1

問題 1 を選んだ受験者は問題 2 より少なかったですが、中にはたいへんよく考察できている解答がありました。テクスト A の作品名と見出し、およびテクスト B の作品名、詩の題名、およびあとがきの意味や役割に言及したり、テクスト A の「ぼく」と「あいつ」の関係と、テクスト B の「僕」と「君」の関係を比較したりしながら、深い分析ができていました。また、テクスト B の絵とその英語で描かれているタイトルに着目して、テクストと視覚イメージの関係に至るまで見識あるコメントを展開しているものもありました。このような解答は、各テクストがどのように異なる読者層や世代に働きかけ、文章の目的を伝えているかも、十分比較対照できていました。しかし、一部には、読みやすいが哲学的な批評文であるテクストAと、詩的文体で抽象的なテクストBの内容が的確に理解できていない解答もありました。

問題 2

大多数の受験者はテクスト C と D の主題について適切に理解しており、各テクストにおける異なる文体や言語の使い方がメッセージの伝達にどのような影響を及ぼしているかも分析できていました。特に、テクスト D がウェブサイトからの抜粋であることに気づき、研究機関とその目的や活動、読者層などのさらなる分析もしながら、テクスト C と比較対照できていました。一方、抽象的なテクスト C の意味するところ、そして詩的な表現技巧についての分析や効果を適切に論じている解答はあまり見られませんでした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

受験者は採点規準を十分に理解していなければなりません。試験問題 1 のテクスト分析において、受験者は初めて読む作品の抜粋に適切に言及しながら自分の考えを裏付けることが大切です。作品や抜粋のあらすじや内容をあらためて説明することはどの評価要素でも求められていません。また、2 つのテクストを比較分析したうえで、自分の考えを効果的に構成し

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

て、簡潔に書くという訓練も必要です。深い考察や議論の展開もなく、単にだらだらと書き続ける解答では高得点は期待できません。さらに、語彙を豊かにするためにも、漢字の練習を継続的に続けてください。

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 2	3 - 5	6 - 8	9 - 11	12 - 15	16 - 18	19 - 20

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

テキスト 1 では、ライフタイルが変化したことによるしわ寄せが学校にばかりきてしまっていることが指摘されており（18 行目以降）、学校のみに負担をかけるのではなく、社会全体でできることがあるのではないかという問題提起がなされています。この点を 2 つ目の設問の「幅広い社会問題」につなげることができるのですが、中にはテキストと全く関係のない社会問題を論じている答案もありました。あくまでもテキストに基づいて答案を書いてほしいと思います。また、テキスト 2 では、筆者が例に挙げている音楽のジャンルをどのように描写しているのかを捉える必要がありましたが、アイドルがなぜヒットしたのかだけを説明している答案も見られました。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

テキスト 1 では、「経済協力開発機構（OECD）の国際調査」や「横浜市教育委員会の調査」「愛知県犬山市の事例」のもつ効果についての指摘ができていました。また、テキスト 2 では視覚効果としてのビデオの使用や文体についても具体的に説明できていました。これらの結果から、授業においても表現技法や言葉遣いに気をつけてテキストを読むように心がけていたことが窺えます。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

テキスト 1 とテキスト 2 を選択した生徒の割合は 42%と 58%でした。

テキスト 1

大多数の受験者が「経済協力開発機構（OECD）の国際調査」や「横浜市教育委員会の調査」などの数字のデータを示すことで、客観的な視点を取り入れていることを指摘していました。ただ、筆者のメッセージとしての「不均衡に歯止めをかけないと早晩もたなくなる」という

点に言及してはいるものの、その表現の持つ意味を説明しきれていない答案が多く見られました。

テキスト 2

大多数の受験者はこのテキストがウェブサイトからの抜粋文であることに気づき、言語の使い方がブログの作成者のメッセージの伝達にどのような影響を及ぼしているか分析できていました。ブログの作成者は自身のメッセージに根拠をもたせるためにさまざまな例を用いています。中には信憑性の薄いものもあるのですが（13 行目「うる覚え（原文のまま）ですが、確かこんな事を言っていた記憶があります」）、その点にまで目を向けることは十分になされていませんでした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

答案の中には、「考察を促す問い」（ガイディング・クエスチョン）を全く読んでいないと思われるものもありました。「言語と文学」では 2 つの問いに答えることは必須ではないのですが、これらは分析の手がかりになります。答案を書き始める前に、2 つの問いをしっかりと読むように指導すると良いでしょう。

漢字は日頃から練習し、誤字に気をつけるように心がけることが大切です。また、基本的なことですが、答案を書く際には、原稿用紙のマス目に名前を書いてはなりません（匿名性が失われるためです）。答案を作成する際には必ず青か黒のボールペンを使用するようにしてください。修正液や修正テープ、消えるボールペンの使用は認められていません。あまりにも書き直しや削除線が多い答案はかなり読みにくいものになってしまいます。このことで減点はしませんが、普段から構成を組み立ててから書くように練習すると良いでしょう。

Higher level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 4	5 - 9	10 - 13	14 - 17	18 - 20	21 - 24	25 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

今回は問題の傾向が変わったことで、問題の意図するところが何かを正確に読み取ることが難しかったようで、問題を読み取る力の差がはっきりと成績になって表れていました。

設問の意図するところを正確に読み取れた生徒は、文学的特徴とその効果についても非常にすばらしい解答を書いていましたが、読む力のない生徒は、自分に都合のいい解釈のもとに、あるいは、読み取れた問題の一部にしか答えていませんでした。

設問によっては、作品の書かれた時代的な背景も重要な意味を持つ場合があり、そこを無視した論理展開には説得力がありませんでした。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

小論文の書き方についてはしっかりと練習をしてきたことが十分にうかがえました。多くの小論文は２つ以上の作品をバランスよく扱っており、また、構成も序論と結論を巧みに関連付けた効果的なものになっていました。

成績上位者は、作品の主題や内容だけでなく、作者や作品の時代背景についても十分な知識を持ち合わせていました。また、作品からの引用も多く、引用箇所や長さも的確でした。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1. この設問では、よくできた生徒とそうでない生徒がはっきりと分かれていました。学習してきた作品によっては、「癒し」というテーマは扱いやすかったようですが、そうでない作品の場合はどうしてもこじつけた感じがあり、論にも説得力がありませんでした。

2. この設問では、問題文に対する理解が成績を左右しました。「男女の役割」を「男女関係」というようにとらえて書いた答案、また、「どのように変化し」という部分に答えていない答案が多く見受けられました。また、「どのように表現されているか」について触れていた受験者はわずかでした。

3. この設問でも、問題文に対する理解が成績を左右しました。「都市の生活」あるいは「地方の生活」に関する描写の重要性について論じる問題だったのですが、「舞台」あるいは「背景」という言葉がでてこない答案が多かったのが印象的でした。問題の意味から考えると、「都市」と「地方」は対比関係ととらえるべきなのですが、中には「アメリカ地方」「西洋地方」について書いた答案もありました。

4. 最も多くの受験者(74%)がこの設問を選びました。まず「負の側面」とは何かを自分の中で明確にしたうえで論を展開できていた受験者の答案には、すばらしいものが多くありました。今回、例年より平均点が高かったのはこの設問にうまく答えた受験者が多かったことが一因だと思われます。しかし、「どのような効果をあげているか」について全く触れていない答案もあり、そのような答案は高得点には届きませんでした。

5.「方言の消失による文化の消滅」「神の存在の有無による倫理観の変動」等についての持論を述べるだけで、学習した作品におけるこれらの重要性にまで論が発展しなかった答案が目立ちました。

6. 異なる文字の使い分けについての単なる説明だけではなく、その効果についてもっと深く論じるべきでした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 小論文がどのようにして評価されるのかを確認するために、生徒と一緒に評価規準を読み込んでおくことが重要です。

International Baccalaureate® Baccalauréat International Bachillerato Internacional

2. 設問をじっくりと意味をよく考えながら読み、要求されていることを理解し、その要求のすべてに答えなければ高得点は期待できません。単に作品について学習してきた内容や理解をいくら長々と書いても、あるいは、あらすじをいくら正確に書いてもそれだけでは得点になりません。

3. 以下は減点にはならないものの、基本をしっかりと教えてほしいと思います。

1) 文学作品名は、『　　』でくくりましょう。
2) また、原稿用紙を使う場合は、最低限の使い方も守ってほしいと思います。特に、「ぶらさがり」を使わないで、原稿用紙の行の最初に「、」「。」などがきている答案が目立ちました。

4. 漢字力の弱さが目立つ答案が多いと感じました。特に、作品名、作者名、登場人物名などに誤字・脱字があると、「何を学習してきたのか」と思ってしまいます。また、小論文を書く上で、最低限必要な語彙は漢字で正確に書いてほしいと思います。これは、規準 E に影響します。

5. 試験官はスキャンした答案をスクリーン上で採点します。原稿用紙を使用せずに普通の罫線に書いている答案の場合、あまりにも小さな字だと非常に読みにくくなるため、大き目に書いてほしいと思います。

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 - 3	4 - 7	8 - 10	11 - 14	15 - 19	20 - 23	24 - 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

今回は試験問題の傾向が変わったため、特に SL の生徒には設問の意図するところが何かを正確に読み取ることが難しかったようでした。そのため、問題を読み取る力の差がはっきりと成績になって表れていました。

設問の意図するところを正確に読み取れた生徒は、問われていることを軸にしてすばらしい解答を書いていましたが、読む力のない生徒は、自分に都合のいい解釈のもとに、あるいは、読み取れた問題の一部にしか答えていませんでした。

設問によっては、作品の書かれた時代的な背景も重要な意味を持つ場合があり、そこを無視した論理展開には説得力がありませんでした。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

小論文の書き方については、「とりあえずこれだけは書こう」という練習をしてきたという印象をうけました。つまり、覚えてきたことを書くだけ書いた部分と、時間内に考えて書いた部分との違いがわかる答案が多く見られました。

逆に、成績上位者は、２つの作品をバランスよく扱いながら、序論と結論を巧みに関連付け、構成もしっかりと組み立てていました。さらに、作品の主題や内容だけでなく、作者や作品の時代背景についても十分な知識を持ち合わせており、作品からの引用も多く、引用箇所ならびにその長さも的確でした。本来 HL がとれる生徒が、なんらかの事情により SL をとっていると感じた作品も少なからず見受けられました。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1. この設問を選んだ受験者はいませんでした。

2. この設問では、問題文に対する理解が成績を左右しました。「男女の役割」を「男女関係」というようにとらえて書いた答案、また、「どのように変化し」という部分に答えていない答案が多く見受けられました。また、「どのように表現されているか」について触れていた受験者はわずかでした。

3. この設問でも、問題文に対する理解が成績を左右しました。「都市の生活」あるいは「地方の生活」に関する描写の重要性について論じる問題だったのですが、「地方」とは何かがよくわかっていない受験者もいました。問題の意味から考えると、「都市」と「地方」は対比関係ととらえるべきなのですが、中には「アメリカ」と「日本」を比較している答案もありました。

4. 約半数の受験者(47%)がこの設問を選びました。まず「負の側面」とは何かを自分の中で明確にしたうえで論を展開できていた受験者の答案には、すばらしいものが多くありました。今回、例年より平均点が高かったのはこの設問にうまく答えた受験者が多かったことが一因だと思われます。しかし、「どのような効果をあげているか」について全く触れていない答案もあり、そのような答案は高得点には届きませんでした

5. 作品中にでてきた昔話と、作品の登場人物の心情とを結びつけて答えており、着眼点は良いのですが具体的な表現や重要性については述べられていませんでした。

6. 異なる文字の使い分けについての単なる説明だけではなく、その効果についてもっと深く論じるべきでした。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 小論文がどのようにして評価されるのかを確認するために、生徒と一緒に評価規準を読み込んでおくことが重要です。

2. 設問をじっくりと意味をよく考えながら読み、要求されていることを理解し、その要求のすべてに答えなければ高得点は期待できません。単に作品について学習してきた内容や理解

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

をいくら長々と書いても、あるいは、あらすじをいくら正確に書いてもそれだけでは得点になりません。

3. 以下は減点にはならないものの、基本をしっかりと教えてほしいと思います。

1) 文学作品名は、『　　』でくくりましょう。
2) また、原稿用紙を使う場合は、最低限の使い方も守ってほしいと思います。特に、「ぶらさがり」を使わないで、原稿用紙の行の最初に「、」「。」などがきている答案が目立ちました。

4. 漢字力の弱さが目立つ答案が多いと感じました。特に、作品名、作者名、登場人物名などに誤字・脱字があると、「何を学習してきたのか」と思ってしまいます。また、小論文を書く上で、最低限必要な語彙は漢字で正確に書いてほしいと思います。これは、規準 E に影響します。

5. 試験官はスキャンした答案をスクリーン上で採点します。原稿用紙を使用せずに普通の罫線に書いている答案の場合、あまりにも小さな字だと非常に読みにくくなるため、大き目に書いてほしいと思います。

International Baccalaureate
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional